

これからの学習塾が果たす役割とは？

河北新報社「学び応援チーム(※)」が仙台市内の学習塾関係者と連携を図る「学び応援チームJ」の座談会の様子を、3回に分けてレポートしています。レポート2回目の今回は、学習塾をとりまく現状と、これからの学習塾が目指す方向性についての発言を紹介します。

「学び応援チームJ」座談会レポート②

変化するニーズ

「学習塾に対する、保護者や生徒のニーズは変わってきていると思いますか？」

畠山 学習支援の質を高めてほしいという要望は今もあります。ただそれ以上に、受験や就職に挑戦する強い気持ちや、環境の変化に対応できるしなやかさを醸成してほしいという期待が高まっているように感じます。

岡 テストの点数が上がればOK、という時代ではなくなっていますよね。勉強に取り組む姿勢を重視する傾向があると思います。庄子 たしかに、保護者と相談しながら、どんな声かけで生徒の頑張りを引き出すか、といった役割が大きくなっている気がします。

「自分らしさ」を育む

「そのような状況の中、学習塾は今後どんな役割を果たしていくのでしょうか。子どもたちの将来像についてのお考えも含めてお話しください。」

岡 いい大学に入って就職、というかつての理想的な「型」の価値が薄れて、生き方の自由度が増してきている分、主体的に考える力

主体的・能動的な「個」を育む



普段から意見を交わし合う機会が多い「学び応援チームJ」のメンバー



「自分の言葉で考えを伝えられる大人になってほしい」と話す岡さん

が今後ますます重要になっていく気がします。学力向上を使命としてきた塾のあり方も転換を迫られていると思います。

畠山 子どもたちには、自分の持ち味を生かして新しいことを企画できるような力を養ってほしいです。子どもたちが各々の持ち味を育むためには、「これ、楽しいな」と思えることに会うことが大事です。弊社では、1対1での指導を通してそのような出会いをサポートできるような体制を一層強化していきたいです。

庄子 弊社の理念のひとつは、*Be yourself (自分らしさ)*。畠山さん同様、個々の生徒にどう寄り添うかを重要視しています。ただ、各教室である程度同じ学習内容になるよう教材は統一しています。

岡 自分らしく主体的に生きるためには基礎学力もやはり重要なんですよね。それに、「頑張ったらできるようになった」という経験の積み重ねも、自発性の獲得につながると思っています。

庄子 私自身、「分らない」とことが「分かる」ようになる体験は楽しかった。塾が、そんな体験ができる場になれたらいいですね。

「異なるスタイルの塾で活躍するみなさんですが、考え方には共通点が多いように感じました。次は、これからの教育において新聞が果たしうる役割についてお話を聞いてみたいと思います。」

※新聞を用いた教育活動や企業研修のサポートなどの取り組みを続ける河北新報社内のグループ。

岡 宏志さん
1973年山口県阿武町生まれ。小中学生対象の学習塾を宮城県内に展開する河合塾NEXTで、教室運営部長として全10教室を統括。



庄子 絹さん
1971年仙台市生まれ。子どもを対象とする英語教室を全国展開するベネッセビースタジオで北海道東北地域課長として約90教室を管轄。



畠山 明さん
1968年気仙沼市生まれ。生徒一人一人のニーズに合う「完全1対1指導」個別教室のアップル代表。震災遺児への無料学習支援も実施。



学び応援チームによる原則週1回配信の「学び応援LINE」に登録をどうぞ。